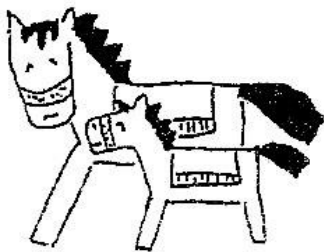


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポッキリ、ポッキリと

28年 11月 NO.264



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

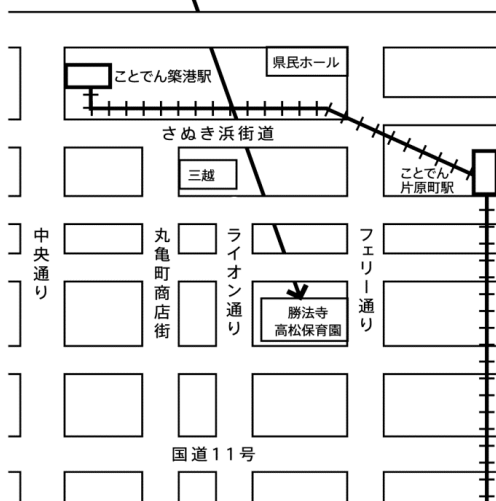
～どなたでも～ 11月の主な活動 ～お気軽にどうぞ～

| | | | |
|---------|---|-------------------------|---|
| 11月 5日 | 土 | 体験保育 10:00～12:00 | お子様と同じ年齢のクラスに 入ってあそびましょう。 |
| 11月 12日 | 土 | 体験保育 10:00～12:00 | 出産予定の方も育児体験においで下さい。 |
| 11月 18日 | 金 | 香川みすゞさんの会 8:00～16:00 | 岡山市の私設野外あそび場と 植林活動の見学に行きます。 |
| 11月 19日 | 土 | 絵本と小物づくり 14:00～16:00 | 巻き込みペーパーサートを作ります。 どなたでもどうぞ。 |
| 11月 25日 | 金 | おはなしの会 10:00～12:00 | 「秋まっさかり」をテーマに絵本や ブラックシアター、わらべ唄などお楽しみ下さい。 |
| 11月 25日 | 金 | 健康・育児相談 11:00～12:00 | 園医師（小児科）にゆっくり相談できます。 (予約要) |

・火～土の13時～16時までは、園内開放しています
ので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談（月～土）9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



矢崎節夫童話集
「きらり きーん」

おとうさんが
かいた
つくえだぞ

あかちゃん
うまれた
ばんざーい
そのひの
につきに

とどかへ
いっちゃん
え

なつながら
いっちゃん
え

おとうさんの
こころ
しごと
づくえだもん

ぼくは
こころ
いるんだよ
まえから

きみが
うまれる
ずうっと
ま

とどな
なだ
このつくえ

ぶつ
いた
このつくえ

おとうさんの
つくえ



今、保護者に届けたいメッセージ 1

—わが子は今、何を一番求めているのでしょうか？—

京都大学名誉教授 鯨岡 峻

今、保育をめぐる難しい問題が山積しています。

社会的には、待機児童の問題があるかと思えば保育士不足の問題があり、それでいて保育の質を確保したいというように、保育行政も難題を抱え込んでいます。

また保育の現場では、あれも教えてください、これもさせてくださいと、子どもに教育をしてくれるように強く求め、それに応えてくれる園を「質の高い保育をしてくれる園」と考える保護者がいます。そうかと思えば、もっと子ども一人ひとりの気持ちをわかって保育をしてください、集団の一員とまとめてしまわずに、一人ひとりの子どもの思いを大事にして、ていねいに保育をしてくださいと、保育園に求める保護者もいます。この二つのタイプの保護者ニーズにどのように対応するかは、どの保育園にとっても難しい課題です。

このように、保育をめぐる難しい状況がある中で、子どもにとってはどのような保育が「子どもの最善の利益」につながるのでしょうか。それを考える時、私には今、保護者の皆さんに届けたいメッセージがいくつかあります。それはまた裏返せば、保育者に届けたいメッセージでもあります。

今、わが子がお母さんに本当に求めているのは何だと思いますか？

「今、何がほしい？何がしたい？」とお母さんが聞けば、子どもからはすぐに、「おもちゃ、ゲーム、絵本、お菓子」といった答えや、「遊園地や旅行に連れて行って」といった答えが返ってくるでしょう。

しかし、子どもがお母さんに本当に求めているものは（子ども自身は気

づいていないでしょうが)、それらの物や事ではなくて、じつはお母さんの愛情なのです。

「お母さんは、そのことに気づいていましたか？」そのように訊ねると、「もちろん、わが子を愛していますよ。母親なのだから、それは当然でしょう」と答える人がほとんどだと思います。

しかし、お母さんのその愛情は、子どもに本当に届いていますか？自分の願ったことをしてくれた時、自分のいうことを聞き分けてくれた時、あるいは可愛い仕草や表情を見せてくれた時、その時は可愛がってあげる、というように、条件付きの愛情の示し方になっていませんか？あるいは、子どもがほしがっているものを買って与えたり、家族で行楽に出かけたりすることで、愛情を示していると思込んでいる、ということはありませんか？

物を買って与えたり、行楽に連れて行ったりすることは、愛情の示し方の一つではありますが、愛情そのものではありません。愛情が目に見えるものではないからです。あなたのことを愛している、あなたのことを大事に思っているという、わが子を優しく温かく包む心の動き、これが愛情です。

その目に見えないお母さんの愛情は、日々の生活の中で子どもにしっかり届いていますか？子どもは、「僕は（私は）お母さんに愛されている、大事に思われている」と確かに感じていますか？

お母さんの愛情がしっかりと子どもに届いているなら、子どもはきっと元気いっぱい、意欲満々で、園での生活を存分に楽しめているはずです。ところが、私が見る限り、保育園でのびのびとした元気な姿を示し、はつらつとして遊ぶ子どもが近年、ずいぶん減ってきているように見えます。それにはいろいろな要因が絡んでいるでしょうが、お母さんの愛情がしっかりと子どもに届いていないこともその要因の一つではないでしょうか。



お母さんの気持ちは、今、わが子の心に向かっていますか？

お母さんは、今、わが子をどのような目で見ているのでしょうか。できることが早く増えればいい、聞きわけがよければいい、というように、能力面や聞きわけのよさの面ばかりに目を奪われて、わが子の心の動きに目が向かなくなっていないませんか？だから、わが子が本当に求めているものは自分の愛情なのだとということに気づかなかったのではありませんか？

忙しさのあまり、「早くしなさい！」「ちゃんということを聞いて！」と自分の思いを子どもにぶつけてばかりいるお母さんが、残念ながら増えてきました。

子どもの心の動きは、ある行動が「できる、できない」のようには目に見えません。目に見えない心の動きは、お母さんが自分の心を子どもに寄り添わせない限り、感じとることができないものです。逆に、子どもの心にお母さんの気持ちを寄り添わせることができれば、子どもの心の動きがお母さんの心に伝わってきます。そうすると、「何かわからないけど、モヤモヤしているみたいね」「イライラしていることがあるようね」「元気いっぱいだね」というふうに、子どもの心がいろいろと掴めてきます。そのように子どもの気持ちが掴めれば、抱きしめてあげよう、添い寝をして本を読んであげよう、褒めて認めてあげよう、というように、子どもへの優しい対応も自然に出てきます。

しかし、お母さんがもしも気持ちを子どもに向けていなければ、子どもの心の動きは掴めません。掴めないと、お母さんの思いを子どもにぶつけるだけのかかわりがみちびかれてしまいます。ここに今、家庭での子育ての大きな問題の一つがあるように思われます。

(「保育通信 9」2016 より)

